

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成21年11月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170101414
法人名	有限会社 悠ライフ
事業所名	悠ライフさくら山鼻
所在地	〒064-0916 北海道札幌市中央区南16条西9丁目1番33号 (電話) 011-(513)-3987

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年10月29日	評価確定日	平成21年11月30日

【情報提供票より】 (平成21年 10月 14日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 28日
ユニット数	2 ユニット 18人
職員数	16人 常勤 15人、非常勤 1人、常勤換算 15.4人

### (2) 建物概要

建物構造	RC造り
	3階建ての 2～3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円
その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(225,000円) 無
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 円 有りの場合償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円
	夕食 円 おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円

### (4) 利用者の概要(10月 29日現在)

利用者人数	18名 男性 0名 女性 18名
要介護1	4名 要介護2 7名
要介護3	6名 要介護4 1名
要介護5	名 要支援2 名
年齢	平均 83.5歳 最低 75歳 最高 94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	北24条在宅クリニック、ことに共生クリニック、馬場歯科小児歯科診療室
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

街中にあり自然環境にも恵まれた静かな住宅街に新築され、玄関周り・廊下・居間・食堂など明るく広々として開放感ある建物となっている。管理者・職員は「笑顔と温もりのあるその人らしい暮らし、地域に愛される環境づくり」を理念とし、利用者本意のケアサービスに熱意を持って実践している。地域住民とは町内会活動などで積極的に交流し良好な関係を構築している。法人代表者は職員育成を重要視し、研修参加や学習会などで職員の資質向上を図る機会を設けている。連携医療機関の訪問診療や24時間対応の体制があり、利用者にとって安心なものとなっている。職員のコミュニケーションが良く、利用者とは家族のような関係が築かれ、ゆったりと穏やかな日々の暮らしが伺える。地域密着型サービスとして期待されるグループホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題である①推進会議を運営に活かす②職員育成③重度化や終末期への対応④災害避難訓練の計画・実施・記録等は、改善へ向け取り組み解決されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員個々の自己評価を基に、上質のケアサービス提供への課題を全体会議などで話し合い、管理者により纏められている。表出した課題を共有し具体化して改善に向け意欲的に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 推進会議は2カ月毎に開催し、評価結果や運営状況を報告して事業所運営の意義・役割への理解と協力を得る為に働きかけている。会議メンバーからの意見・要望・助言などは、ユニット会議などで報告し情報を共有してサービス向上に反映させている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会の活動を通じてコミュニケーションを図る、毎月のお便りに返信用封筒を同封し意見を伝えてもらう、苦情相談窓口を設置するなど、家族が意見・希望・要望・不安・苦情など表す機会を積極的に設けている。出された意見・要望などを事業所運営に反映させるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民とは町内会活動、事業所行事への招待、隣接駐車場の利用などで良好な関係を構築している。近隣住民が気軽に立ち寄りおしゃべりしたり、職員が介護の相談に応じるなど日常的に親しく交流している。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者のこれまでと変わらぬその人らしい暮らしの継続と、地域との交流を目指し、事業所独自の理念を全職員で話し合っ事業所独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議や毎日の申し送り時に理念の確認と共有を図り、日々のサービス提供に活かされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民とは町内会活動、事業所行事への招待、隣接駐車場の利用等で良好な関係を築いている。近隣住民が気軽に立ち寄ったり、職員が介護の相談に応じるなど親しく交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	個々に自己評価を行い全体会議で話し合っ管理者により纏められている。全職員は評価の意義や活用方法を理解し、評価により表出した課題を共有して改善に取り組み、サービス向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月毎に開催し、運営状況の報告や会議メンバーから出された意見や要望を話し合っって事業所運営に反映させている。地域の方を講師に学習会を実施したり、会議の内容をユニット会議などで報告し情報を共有してサービスの質向上を図っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の管理者会議に毎月出席し、市や区の担当者とは事業所運営への助言や意見をもらうなどで連携を図り、サービス向上に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員は利用者一人ひとりの事業所での暮らしぶりや出来事を伝える手紙と共に、金銭出納長・領収書などを家族に毎月送付している。ユニット合同の季刊誌「悠ライフだより」を発行し、事業所の情報なども報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に意見・要望・苦情などを伝えてもらう為、毎月の報告と共に返信用を同封している。今年度より発足した「家族会」での話し合いや苦情相談窓口の設置等、家族の意見を運営に反映させる取り組みもある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初は職員の離職も見られたが、在職者支援として本社担当者による定期的な面談を実施し、職員の悩みや不安を把握して離職を防ぐように取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人代表者は職員育成に積極的に取り組み、年間の研修計画を立て法人内部・外部での研修参加を薦めている。研修内容はカンファレンス等で発表し共有して職員の質向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の認知症高齢者連絡会や在宅ケア連絡会と連携してスタッフ研修・学習会などで同業者との交流をしている。系列内のグループホームと年3回は交流する機会がある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族が見学の際には入居者と共にお茶の時間を過ごしたり、事業所の雰囲気になれてから利用開始に至っている。利用者の都合に合わせて自宅・病院・施設などにも出向いて面談するなど、十分に話し合い納得と安心を得てからの入居としている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が家族のように支え合って暮らす大切さを理解し、経験豊かな人生の先輩として教えて貰う場面も多く、生きがいのある日々となるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族からの情報を得て、本人の思いや興味のある事・好き・嫌いなどを把握している。日常的に関わる中での会話や表情からも汲み取って出来る限り意向に沿えるように支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各利用者の担当職員を決めて毎月のケアカンファレンスで検討し、ユニット会議・全体会議などで情報を共有して話し合い、家族の意見・希望も反映させて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6カ月毎に見直しを実施しているが、気付きボードを設置して日々の変化を見逃さない工夫をしており、状態の変化に応じたその都度の見直しも行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望に応じて原則は家族対応の通院介助や福祉車両の利用手続き、理美容院の送迎、個別の買い物や外食など希望に応じて支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月2回の訪問診療を実施し、24時間緊急時対応の体制をとっている。週2回の訪問看護で日々の健康管理も出来ている。利用者・家族の希望するかかりつけ医を受診する場合は主治医との連携を蜜にして支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応指針を作成し、入居時に利用者・家族に説明している。利用者・家族の意向や医療機関との連携を図り終末期生活支援に努める体制がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個々の利用者を良く理解し、自然で優しくプライドを傷つけない対応をしている。個人情報や記録の管理にも配慮が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの希望に合わせて体調やペースも考慮して外出・買い物・入浴など柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、職員と一緒に調理や後片付けなどしている。職員と共にテーブルを囲み、体調や誤嚥・持病などを考慮してさりげなく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間に決まりはなく、利用者の希望や習慣に沿って対応し、その日の体調を考慮して支援している。入浴チェック表で定期的な入浴への配慮もしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の興味や得意な事を把握し、畑作り・掃除・料理・洗濯物たたみなど役割を持ち出番があるように、体操・生花・ぬり絵・歌などの気晴らしや楽しみを持ちその人らしく暮らせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画書を作成し、季節の行楽・ドライブ・お祭り・外食などの外出の機会を設けている。利用者の体調や天候を考慮しながら、出来るだけ戸外へ出かけるよう取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、日中はチャイムを設置し見守りをする事で施錠しないように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害防災マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。前回評価の改善課題である訓練計画・実施・報告の記録もしている。	○	利用者の安心と安全を確保するには、職員の少ない夜間想定での避難訓練の取り組みを望みたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録し、利用者個別に状況変化の確認をして支援している。食材業者によりカロリー計算され、利用者の好みや体調に配慮して提供されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームとして設計・新築され、オープンキッチンを中心に食堂・居間・和室など明るく開放的で広々している。各所にソファや椅子が置かれ利用者が個々に寛いで過ごすことが出来る。鉢植えや生花などを飾り家庭的な雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具類や仏壇・テレビ・日用品を持ち込み、好みの鉢花や趣味の品を飾って、その人らしく自由に落ち着いて過ごすことが出来る。		

※  は、重点項目。